

# 2025年度（令和7年度） 町田市立南中学校 国語科 3年 年間指導計画及び評価規準

使用教科書：国語3（光村図書出版） 年間授業時数：105時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準
4	世界はうつくしいと	1	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 詩を通読する。</p> <p>2 詩を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩を読んで感じた素朴な疑問を質問の形にして書き出す。</li> <li>・隣どうして質問し合い、お互いに相手の質問について考えたことを伝える。それを踏まえて、自分なりの答えを考える。</li> <li>・自分にとっての「うつくしいもの」を考え、グループで交流する。</li> </ul> <p>3 詩の特徴を生かして朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの解釈を踏まえて、詩をもう一度朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。</p> <p><b>【態】</b>進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。</p>
4	1 深まる学びへ 握手	6	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 作品の設定を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在」と「回想」の部分を読み分け、時間の順序を整理しながら、場面や登場人物の設定を確認する。(学習①-1)</li> <li>・展開のしかたにどんな特徴や効果があるか話し合う。(学習①-2)</li> </ul> <p>3 登場人物の人物像を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルロイ修道士」の人物像が読み取れる言動を抜き出し、どのような人物であるかを短くまとめる。(学習②-1)</li> </ul> <p>4 登場人物の心情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたし」と「ルロイ修道士」との間でかわされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。(学習②-2)</li> <li>・「ルロイ修道士」の葬式で、「わたし」が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」ことの意味を考える。(学習②-2)</li> </ul> <p>5 読み深めた感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み深めたことを踏まえ、「ルロイ修道士」の考え方や生き方について、自分で考えたことや感じたことを書く。(学習③)</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「握手」の展開のしかたにはどんな特徴や効果があったか、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。</p> <p>→時間・場所など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句や、登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目している。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えようとしている。</li> <li>→「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えようとしている。</li> <li>→文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。</li> </ul> <p><b>【態】</b>粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。</p>

				・「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い、考えが深まったことを挙げる。	
4	[聞く] 意見を聞き、適切さを判断する	1	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 坂本さんのスピーチの練習を聞く。 ・「中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ」という坂本さんのスピーチを、メモを取りながら聞く。 ・聞き取りメモと、P30「意見を聞き、適切さを判断するために」を基に、坂本さんの意見や、その根拠が適切かどうかを判断する。 2 スピーチをよりよくするための助言を考える。 ・坂本さんの練習相手になったつもりで、助言を考える。 ・自分で考えた助言を友達と共有する。 3 学習を振り返る。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善策を検討している。 【態】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
4	文法への扉1 「走って」いるのは誰？ 文法1 文法を生かす	1	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(2年知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。 ・導入の課題に取り組み、AさんとBさんとの間で食い違いが生まれた原因について考える。 ・どうすれば食い違いが生じなかったのか、文法的な観点から話し合う。 2 P230「文法1 文法を生かす」を読む。 ・文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。 【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして設問に取り組みようとしている。
5	説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす	3	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 話題を決め、情報を集める。 2 話の構成を考える。 3 スピーチの会を開く。 4 交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。 【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
5	言葉1 相手や場に応じた言葉遣い	2	◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わ	1 導入の例を読み、相手や場に応じた言葉遣いについて関心をもつ。 2 相手や場に応じた言葉遣いについて理解する。 ・「相手や場に応じた言葉遣い」を読み、相手との間柄や場な	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、実際の使用場面を想定しながら、適切な使い方を考えている。

			り、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	<p>どを踏まえて、言葉遣いを選ぶ必要があることを理解する。</p> <p>3 相手や場に応じた表現について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手や場に応じた表現の選び方」を読み、相手や場にふさわしい表現を選ぶために、気をつけるとよいことを理解する。</li> <li>・P37下段「やってみよう」に取り組む。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や場にふさわしい言葉遣い・表現を選ぶために、何に気をつければよいかを確かめる。</li> </ul>	【態】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
5	漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう1	2	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>◇漢字の音訓、部首、送り仮名などの既習事項を思い出させる。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
5	学ぶて時に之を習ふ ——「論語」から 漢文の訓読	4	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「論語」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材冒頭の解説とP40のコラム「孔子と弟子たち」を読む。</li> </ul> <p>2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しや歴史的仮名遣いと現代仮名遣いに注意して、繰り返し朗読する。</li> </ul> <p>3 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験を伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。</li> <li>・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ)</li> <li>→日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。</li> </ul> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。</p> <p>【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。</p>
6	作られた「物語」を超えて	3	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 論理の展開を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴリラの事例の概要を、教科書に示された3点に着目して捉える。(課題1-①)</li> <li>・この文章の論理の展開を、教科書に示された2点に着目して捉える。(課題1-②)</li> </ul> <p>3 筆者の主張を捉える。(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、作られた「物語」を超えて真実を知るために、どうすべきだと主張しているか、要約する。</li> </ul> <p>4 筆者の主張について考え、文章にまとめる。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が指摘する人間の性質について、思い当たる事例を一つ挙げ、今後どのようなことを意識していきたいか簡潔にまと</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>→論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」の関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。</p> <p>【態】進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

				める。 5 学習を振り返る。 ・論理の展開を捉えるときには、どんな点に着目すると効果的か、自分の言葉でまとめる。 ・今後、自分が意見文を書く際に、論理の展開に説得力をもたせるために活用できそうな工夫を一つ挙げる。	
6	思考のレッスン 具体化・抽象化	2	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	1 教材文を通読する。 ・具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたについて理解する。 ・下段の問題1に取り組む。 ・まとめた文をお互いに伝え合う。 2 教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解する。 ・問題2に取り組む。 ・グループになって、各自が作った具体例の具体化の程度を順序づけ、全体に発表する。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか確認する。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。 【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。
6	漢字に親しもう2	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。 ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	1 導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。 2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。 3 練習問題に取り組む。 4 P60「漢字に親しもう2」の問題に取り組む。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
6	論理の展開を意識して書こう グラフを基に小論文を書く	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 課題に沿って材料を集める。 ・P56の課題を正確に理解し、示された資料を読み解く。 ・読取った事実と、その解釈やそれを基に考えたことを材料として書き出す。 2 構成や内容を考える。 ・軸となる意見を決め、適切な根拠を選ぶ。 ・多様な読み手を説得できるように、論理の展開を考え、文章の構成を工夫する。 3 小論文を書く。 ・規定の文字数を守り、考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して書く。 4 交流する。 ・友達と文章を読み合い、論理の展開などについて助言し合う。 5 学習を振り返る。 ・資料から得たどのような情報を根拠とし、どのように意見と	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア →資料から読み取った事実の中から、自分の意見を支える適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →課題に沿って資料を読み解き、読み取った事実と、自分の解釈や考えを整理して書き出している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。 【態】論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。

			<p>結び付けたか、自分の言葉でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説得力のある小論文を書くために、論理の展開をどのように工夫したか挙げる。</li> <li>・友達と文章を読み比べ、説得力のある資料の活用のしかたについて考える。</li> </ul>		
7	<p>言葉とともに 俳句の可能性 俳句を味わう</p> <p>[書く] 俳句を作って楽しもう</p> <p><b>【書写】</b> 書の古典の鑑賞と学習</p>	6	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表B(2)ウ)</p> <p>●修学旅行に向けた学習を契機に書体と書風を学び、日常生活と芸術としての書の調和を考える。また、文化遺産に書かれた文字の書風の違いを鑑賞し、味わう姿勢をもつ。</p>	<p>1 情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読する。(学習①)</p> <p>2 本文を読み、俳句についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認する。(学習②-1)</li> <li>・本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現を抜き出して、意味を確認する。(学習②-2)</li> <li>・本文やP74「俳句を味わう」から、好きな俳句を一句選び、短い鑑賞文を書く。(学習②-3)</li> <li>・同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合う。</li> </ul> <p>3 P75「俳句を作って楽しもう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名人の作句法などを基に、俳句を作る。</li> <li>・作品を持ち寄り、P75「句会を開こう」を参考にして、句会を行う。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句の特徴にはどのようなものがあったか確かめる。</li> <li>・次に俳句を作るときに参考にしたい語句の使い方や表現のしかたをまとめる。</li> </ul> <p>。 </p> <p>1 事前学習において書と文化遺産についての知識を学ぶ。</p> <p>2 修学旅行を通して訪れる寺院の日本建築と「書」の関係について調べて学ぶ。</p> <p>3 修学旅行および事前・事後学習において、上記①・②についてまとめる。</p>	<p><b>【知・技】</b> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</li> <li>→語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。</li> <li>・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。</li> </ul> <p><b>【態】</b> 進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。</p>
7	<p>言葉の釣り糸を垂らす</p>	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を調べる。</li> <li>→<b>二次元コード</b>「漢字の練習」</li> </ul> <p>2 題名の意味を捉える。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の釣り糸を垂らす」とはどうすることで、それによってどんな効果があるかを、まとめる。</li> </ul> <p>3 筆者のものの見方や考え方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の例を参考に、「言葉の釣り糸」を垂らす「実験」を行</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。</p> <p><b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</p> <p>→筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。</p> <p><b>【態】</b> 筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。</p>

			<p>★文章を読み、実生活への生かし方を考える。 (思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>うことで引き出された記憶や考えを、200字程度でまとめる。 (課題2-①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、「書く」ことを、どのような行為だと考えているかについて、「実験」をしてわかったことや、最後の一文を踏まえて、グループで話し合う。(課題2-②)</li> </ul> <p>4 文章を読んでよいと思ったところを話し合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者のものの見方・考え方や、その伝え方、表現のしかたにおいて、よいと思ったところを話し合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が文章の中で用いた語句・表現の中で、印象に残ったものを挙げる。</li> <li>・筆者のものの見方・考え方に対する自分の考えは、「実験」の前後でどのように変化したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・今後、文章を書くときに取り入れてみたいと感じた、筆者の提案や考え方を挙げる。</li> </ul>	
7	言葉 2 和語・漢語・外来語	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 P72 導入の例を基に、和語・漢語・外来語の表現を比較し、受ける印象の違いについて考える。</p> <p>2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例を参照しつつ、それぞれの特徴を理解する。</li> </ul> <p>・P73「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けられるのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。</p> <p>3 言葉の変化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P74「語彙を豊かに」の教材文を読み、「時代による言葉の変化」と「世代による言葉の変化」があることを知る。</li> <li>・これまでに読んだ本や世代の異なる人との会話などを手がかりにして、時代や世代によって意味や使い方が異なる言葉の例を探し、話し合う。</li> </ul> <p>4 相手に合わせて、言葉を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す相手を自由に設定し、P75 上段にある文章をわかりやすく書き換える。</li> <li>・書き換えた文章を伝え合い、自分の文章を振り返る。</li> <li>・クラス全体で適切な言い方について確認する。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</li> <li>→和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ)</li> <li>→古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。</li> </ul> <p><b>【態】</b>進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。</p>
7	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう	2	<p>◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れている</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P76「やってみよう」①に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の <b>A</b>・<b>B</b> から、青田市では、それぞれの物をどのように分別したらよいか、読み取る。</li> </ul> <p>2 P77「やってみよう」②に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループを作り、実用的な文章には、他にどんなものがあるか、具体的な例を身の回りから挙げる。</li> <li>・実用的な文章を読むときには、どんなことに注目して読めば</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)</li> <li>→示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。</li> <li>・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</li> <li>→複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。</li> <li>・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)</li> </ul>

			<p>ものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>よいか、考えて話し合う。</p> <p>3 P78-81の報道文 <b>A</b>・<b>B</b> を通読し、P82「やってみよう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示された観点を参考に、二つの記事を比べ、表に整理する。</li> <li>表に整理したことを基に、記事について気づいたことや考えたことを300字程度でまとめる。</li> <li>報道文を読むときに気をつけるとよいことについて考える。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実用的な文章を適切に読み取るには、どのようなことに注意するとよいか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>報道文には、発信者の立場や意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に気をつけたいことをグループで伝え合う。</li> </ul>	<p>→発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</li> <li>→実用的な文章の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を読み取っている。</li> <li>「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えている。</li> <li>「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</li> <li>→観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。</li> </ul> <p><b>【態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を踏まえて、積極的に情報を読み取り、学習課題に沿って実生活への生かし方を考えようとしている。</li> <li>文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。</li> </ul>
7	<p>「私の一冊」を探しにいこう</p> <p>羊と鋼の森</p> <p>読書案内 本の世界を広げよう</p> <p>読書コラム</p> <p>ためになるってどんなこと？</p>	1	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 本文を読み、本のさまざまな探し方について知る。</p> <p>2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。</p> <p>3 見つけた本を夏休みなどを利用して読む。</p>	<p><b>【知・技】</b>自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ)</p> <p>→本のさまざまな探し方について理解し、今後の読書生活への生かし方を考えている。</p> <p><b>【思・判・表】</b>「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評などにまとめている。</p> <p><b>【態】</b>進んで本の探し方について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。</p>
9	<p>季節のしおり</p> <p>挨拶</p> <p>——原爆の写真によせて</p>	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。</p> <p>◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通</p>	<p>1 作品を通読し、当時の時代背景について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注意する語句を調べる。</li> <li>作品ができた背景や時代背景を確認する。</li> </ul> <p>2 「顔」という表現を捉える。(学習①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれどのような人の「顔」を表現しているのか考える。</li> </ul> <p>3 表現の効果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第六連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現に込められた意味と、その効果を考える。(学習②-1)</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)</p> <p>→語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中での意味や効果を考えている。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</li> <li>→詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について、自分の考えをまとめている。</li> </ul>

			<p>して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>・最終連に「やすらかに 美しく 油断していた。」とあるが、ここで使われている「油断」の意味とその効果について考える。(学習②-2)</p> <p>4 自分の意見を述べる。</p> <p>・作者は、この詩の中で、どのようなことを考え、伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。(学習③)</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・詩に使われている表現の効果について、考えたことを伝え合う。</p> <p>・詩に表現された内容について、感じたことや考えたことを文章にまとめる。</p>	<p>・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。</p> <p>【態】詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。</p>
9	故郷	8	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 作品を通読し、作品の設定を捉える。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>・作品の舞台や時代背景を確認する。</p> <p>・現在の場面と「私」の回想の場面を確認する。(学習①)</p> <p>・「私」と他の登場人物との関係を整理する。(学習①)</p> <p>2 場面や登場人物の設定に着目して読み取る。</p> <p>・「故郷の様子」、「ルントウ」、「ヤンおばさん」について、回想の場面と現在の場面とを比べて、描写がどのように変化しているかわかる部分を、それぞれ抜き出す。(学習②-1)</p> <p>・「ルントウ」と再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か考える。(学習②-2)</p> <p>・最後の場面で「私」が抱く「希望」や、望む社会とはどのようなものか、「私」と「ルントウ」、「ホンル」と「シュイション」の関係などを踏まえて捉える。(学習②-3)</p> <p>・「私」の考え方について自分はどうか考えるか、話し合う。(学習②-4)</p> <p>3 作品を批評する。(学習③)</p> <p>・読み深めたことを踏まえ、作品のもつ特性や価値について批評する。</p> <p>・「学習の窓」などを参考に批評の観点を決め、本文や調べてわかった事実を根拠に論じたり、評価したりする。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・友達の批評を読んで、自分の捉え方との共通点や相違点などを基に、考えが深まったことを発表する。</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ)</p> <p>→文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</p> <p>→文章を批判的に読み、観点を明確にして、作品のもつ特性や価値を批評している。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→「私」が考える「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。</p> <p>【態】文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。</p>

				・今後、小説を読んで自分の考えをもつために、大切にしたい観点を挙げる。	
9	[推敲] 論理の展開を整える	2	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P120上段の文章を通読したうえで、語句・表現や叙述のしかたを見直し、文章を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示された三つの観点を参考に、それぞれの箇所を書き改める。</li> </ul> <p>2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示された四つの観点を参考に、課題に取り組む。</li> </ul> <p>3 読み手からの助言を踏まえて、確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き改めた文章を友達と読み合い、よい点や改善点を出し合う。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、自分で書いた文章の論理の展開を整えるときに生かしたいと思った点を挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」など情報と情報との関係に着目しながら、課題に取り組んでいる。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ)</li> <li>→目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章を推敲している。</li> <li>・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</li> <li>→論理の展開について、読み手からの助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を確かめ、必要に応じて整えている。</li> </ul> <p>【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。</p>
9	言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。</p> <p>2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣用句を使って短文を作る。</li> <li>・ことわざや故事成語の意味を調べる。</li> </ul> <p>・P118「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べたりしている。</p> <p>【態】慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。</p>
10	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	2	<p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 対談の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人でグループを組み、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～2人)を決め、役割ごとに準備をする。</li> </ul> <p>2 対談を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。</li> <li>・話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出して、相手の内面に迫る。</li> <li>・自分の感想や体験を交えることで、さらに話を引き出す。</li> <li>・聴衆も楽しめるように意識する。</li> <li>・質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。</li> </ul>	<p>【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ)</p> <p>→対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ)</p> <p>→話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。</p> <p>【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。</p>
10	漢字2 漢字の造語力	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その	1 導入の文章を読み、新しい言葉が考え出された経緯を知る。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字

			<p>他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知る。</p> <p>3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>	<p>の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア)</p> <p>→漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
10	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	1	<p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 対談の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人でグループを組み、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～2人)を決め、役割ごとに準備をする。</li> </ul> <p>2 対談を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。</li> <li>・話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出して、相手の内面に迫る。</li> <li>・自分の感想や体験を交えることで、さらに話を引き出す。</li> <li>・聴衆も楽しめるように意識する。</li> <li>・質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。</li> </ul>	<p>【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ)</p> <p>→対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ)</p> <p>→話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。</p> <p>【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。</p>
10	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う	3	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 3人の筆者の提言を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 文章の要旨を捉える。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の筆者が、環境問題を解決するために、今、何が必要だと考えているか、それぞれの提言の要旨をまとめる。</li> </ul> <p>3 文章を比較して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を表にまとめる。(課題2-①)</li> <li>・提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどを、自分の経験や読書などで得た知識と照合して吟味し、評価する。(課題2-②)</li> </ul> <p>4 グループで討論し、提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの提言をどう評価するか、グループで討論する。(課題2-③)</li> <li>・討論を踏まえ、自分の考えをまとめる。(課題3)</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を吟味するとき、読書を通して得た知識をどのように役立てたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・文章を批判的に読み、評価するとき留意すべきことは何か、考える。</li> <li>・今回身につけた文章の読み方の中で、次に論説を読むときに役立ちそうだと思うものを書き留める。</li> </ul>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ)</p> <p>→一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。</li> <li>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</li> <li>→提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、自分の知識や経験と結び付けたり、討論したりして、評価している。</li> </ul> <p>【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>

11	<p>考えを効果的に伝えよう</p> <p>多角的に分析して批評文を書く</p>	5	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 題材を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会で見聞きしたことや、新聞、テレビなどのメディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。</li> </ul> <p>2 観点を決めて分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を決めて問いを立て、考えを深める。</li> </ul> <p>3 構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをわかりやすく伝えるための論理展開や表現のしかたを考える。</li> </ul> <p>4 批評文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・600～800字程度でまとめる。</li> </ul> <p>5 友達と文章を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・批評に有効な観点や表現、論理展開などについて話し合い、互いに助言する。</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような具体例を挙げ、どのように自分の考えと結び付けたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・自分の考えをわかりやすく伝えるために、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・友達の文章を読み、物事を批評するときに、今後参考にしたと思った分析の観点や表現の工夫を挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→文体や表現技法などを検討したり、自分の意見を支える根拠となる資料を引用したりして、文章表現を工夫している。</li> <li>・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</li> <li>→読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。</li> </ul> <p>【態】自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。</p>
11	<p>漢字に親しもう3</p> <p>文法への扉2</p> <p>「ない」の違いがわからない?</p> <p>文法2 文法のまとめ</p>	1	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解することができる。(知・技1年(1)エ、2年(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>3 P141「文法への扉2」を読み、「ない」の文法上の違いを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。</li> </ul> <p>4 P233「文法2 文法のまとめ」にある文法の問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習する。</li> </ul>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【態】今までに学習した知識を生かして、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p> <p>【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ)</p> <p>→言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。</p> <p>【態】単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。</p>
11	<p>聴きひたる 初恋</p>	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代に作られた文語定型詩を聴き、響きやリズムなどについ</li> </ul>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。</p>

			して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	て気づいたことを話し合う。 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。 ・詩に描かれた情景と詩の中の人物の心情を想像する。	【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
11	和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序	1	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 P146「和歌の世界」を読む。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもち、三大和歌集についての特徴や歴史的背景などをおおまかに捉える。 P148「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言葉の響きやリズムを味わう。	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →「和歌の世界」と「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景、和歌に対する古人の思いを捉えている。 【態】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
12	君待つと ——万葉・古今・新古今	2	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 歴史的背景を捉える。(課題1) 2 和歌の表現について話し合う。 ・声に出して和歌を読み、そこに詠まれた情景や心情を、現代語訳を基に想像する。(課題2-①) 3 表現のしかたについて評価する。(課題3) ・和歌を1首選び、表現のしかたに着目して自分の評価を短くまとめる。 4 学習を振り返る。 ・和歌の時代に生きた人々と現代の私たちの共通点・相違点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・どのような表現のしかたに着目して和歌を評価したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の考えを聞いて新たに気づいた和歌の魅力を挙げる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →三つの歌集の歌を音読したり、比較したりして、そこに詠まれた情景や心情を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →自分が注目した表現を引用しながら、和歌を評価している。 【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →三つの歌集に収められた和歌を比較し、特徴的な表現やその効果について、評価している。 【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
12	夏草 ——「おくのほそ道」から	3	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を声に出して読む。(課題1) ・俳句と地の文から成る構成の効果に気づき、芭蕉の思いを想像しながら全文を朗読する。 2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。 ・芭蕉の「旅」についての考えが読み取れる部分を抜き出して、現代の旅がもつ意味と比べる。(課題2-①) ・芭蕉が高館や光堂で何を見て何を感じたのかを考える。(課題2-②) 3 心に響く俳句について発表する。(課題3) ・自分の心に響く俳句を1句選び、その理由や、どのように心に響いたのかについて発表し合う。 4 学習を振り返る。 ・歴史的背景に注意して読むことで、その場面への理解や印象にどのような変化があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作者のものの見方や感じ方について考えたことは何か、自分の言葉でまとめる。 ・友達の発表の中で、印象に残ったものを挙げる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →歴史的背景に注意して作品を読み、作者が何に感動したのかを理解している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →心に響いた俳句やその一節を引用し、その理由などを発表している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →現代の価値観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を確かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。 【態】作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表しようとしている。

12	つながる古典 古典名作選 [書く] 古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう	1	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>1 P166「つながる古典」を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間で出会った古典作品のつながりを感じながら、学習を振り返る。</li> </ul> <p>2 P168「古典名作選」を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気に入ったものがあればノートに書き出す。</li> </ul> <p>3 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P170の手順を読み、これまで学習した古典の文章の中から、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぶ。</li> <li>・どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考える。</li> <li>・自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、選んだ古典の言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめる。</li> </ul> <p>4 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→古典の名作の歴史的背景や後世への影響を知り、その一節を読んでいる。</li> <li>・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ)</li> <li>→古典の言葉を引用して、メッセージを書いている。</li> </ul> <p>【思・判・表】「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>→自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。</p> <p>【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かしてメッセージを書こうとしている。</p>
12	それでも、言葉を	4	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読し、言葉に対する筆者の考えを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句を調べる。</li> <li>・納得したこと・共感したこと、わからないこと・疑問に感じたことなどの観点に沿って、本文に線や記号を書き込みながら読む。(課題1-①)</li> </ul> <p>2 筆者の見方・考え方に対する理解を深める。(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで決めた課題について、言葉の意味を確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら話し合い、理解を深める。</li> </ul> <p>3 言葉との向き合い方について自分の意見をもつ。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が用いた言葉を使って自分の考えをまとめ、発表する。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</li> <li>→文章を批判的に読んだり話し合ったりすることを通して、言葉に対する自分の意見を確立している。</li> </ul> <p>【態】言葉や社会、人間などについて粘り強く自分の意見をまとめ、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて話し合ったり発表したりしようとしている。</p>
12	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう4	1	<p>1 二年生までに学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の部首、音訓、成り立ちや熟語の構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>◇同訓異字や同音異義の漢字を調べ、使い分けができるようにさせる。</p> <p>2 三年生で学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>◇漢字辞典や国語辞典などを使って調べさせる。</p> <p>◇慣用句・ことわざ・故事成語などの意味を調べさせる。</p> <p>3 P182「漢字に親しもう4」の問題に取り組む。</p>	<p>1 二年生までに学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の部首、音訓、成り立ちや熟語の構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>2 三年生で学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>3 P182「漢字に親しもう4」の問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→漢字の組み立てと部首、音訓、成り立ち、熟語の構成、同じ訓・同じ音をもつ漢字、送り仮名、熟語の読み方、漢字の造語力など、3年間で学習した漢字の内容を理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

			<p>◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p>		
12	[話し合い (進行)] 話し合いを効果的に進めよう	2	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板アートについての話し合いの様子を視聴し、課題に取り組む。</li> </ul> <p>2 進行役の発言の効果を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P183に挙げられた進行役の発言は、目的に即した話し合いをするうえで、どのような効果があったか、考える。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを効果的に進めるための工夫を確かめる。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→抽象化の技能を生かし、複数の発言の共通点を抽出し、結び付けてまとめている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりしている。(A(1)オ)</p> <p>→合意形成に向けた話し合いを効果的に進行するための工夫について考えている。</p> <p>【態】積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。</p>
12	合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く	4	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 議題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会や学校生活の中から課題を見つけ、クラスで一つ議題を決める。</li> </ul> <p>2 グループで提案を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングでアイデアを出す。</li> <li>・グループごとに提案を一つに絞り込む。</li> </ul> <p>3 全体会議を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会と書記を決め、クラスで話し合う。</li> </ul> <p>◇タブレット端末などを使用し、座標軸などで提案を可視化しながら整理させてもよい。</p> <p>◇話し合いで出た提案を思考ツールで評価し、クラスで共有させてもよい。</p> <p>4 合意形成のポイントを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループやクラスでの話し合いを振り返り、合意形成のために必要なことや改善点を伝え合う。</li> <li>・どのような共通点を基に、複数の発言を抽象化したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・互いの意見を生かして合意を形成する際に、どのような発言が効果的だったか、確かめる。</li> <li>・合意形成するために、自分が今後大切にしたいと思ったことを挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→提案の根拠に着目して妥当性を吟味したり、複数の発言の共通点を基に抽象化してまとめたりしている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりしている。(A(1)オ)</p> <p>→合意形成に向けて納得できる結論を出すために、提案の意義や実現性を検討したり、互いの発言を生かしたりして話し合っている。</p> <p>【態】合意形成に向けて粘り強く考えを上げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。</p>
1	温かいスープ	2	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを上げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当時の状況がわかる語句や文に線を引き、筆者の思いを想像する。</li> </ul> <p>2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「月末のオムレツの夜」のエピソードを読み、筆者とレストランの母子それぞれの思いを読み取る。</li> </ul> <p>3 国際性について自分の考えをもち、伝え合う。</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)</p> <p>→文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを上げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→自分の考え方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは</p>

			かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	・筆者の考える「国際性」の基本とは何かを捉え、それについて自分の考えをもち、伝え合う。	何かについて、自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
1	アラスカとの出会い	2	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 筆者の生き方や考え方を読み取る。 ・一枚の写真との出会いが筆者の人生においてどのような意味をもっていたのか、読み取る。 ・電車から家族の団欒を見たときの経験から、筆者が何を伝えようとしているのか、読み取る。 3 筆者の生き方や考え方について話し合う。 ・筆者の生き方や考え方について、自分の考えをもち、話し合う。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →筆者の人生において、本との出会いがどのような意味をもっていたのかを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
1	律儀な桜	2	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・時系列に注意しながら、筆者が経験したこと、考えたことなどについて理解する。 2 人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。 ・筆者のものの見方・考え方について、自分の考えをもつ	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の知識や経験と結び付けながら文章を読み、人と自然に対する自分の考えをもっている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして文章にまとめようとしている。
1	わたしを束ねないで	1	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・新出漢字を調べる。 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。 ・詩に込めた作者の思いを想像し、現代に生きる自分たちの可能性について話し合う。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
2	初日 漢字に親しもう5	3	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・これまでの詩の読解を振り返る。 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 2 詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合う。 ・詩に描かれた情景や作者の思いを想像し、その内容について話し合う。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を

		<p>★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>3 P226「漢字に親しもう5」の練習問題に取り組む。</p> <p>・言葉の意味を辞書で確認しながら漢字を読んだり書いたりする。</p>	<p>生かして、作品の内容について話し合おうとしている。</p> <p><b>【知・技】</b> 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→音訓や部首、熟語の構成などに気をつけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p><b>【態】</b> 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
3	三年間の歩みを振り返ろう	<p>5</p> <p>◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 テーマを決める。</p> <p>・印象に残っている学習を思い出し、自分にとっての三年間の学びを総括するテーマを考える。</p> <p>2 内容と構成を考える。</p> <p>・テーマを基に収録する記事を決め、それが効果的に伝わる文章の種類を選ぶ。</p> <p>・全体と構成を考える。</p> <p>3 三年間の学びをまとめる。</p> <p>4 グループで発表会を開く。</p> <p>・内容を紹介し、それと関連させて「これまで」と「これから」の学びについて発表する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・文章の種類とその特徴に関する知識をどのように生かしたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・記事の内容を効果的に伝えるために、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・場の状況に応じて話すために、どのようなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・友達の発表を聞いて、気づいたことや、さらに考えが深まったことを挙げる。</p>	<p><b>【知・技】</b> 話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)</p> <p>→自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)</p> <p>→自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。</p> <p>・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>→記事の内容を効果的に伝えるために、紙面と文章の構成を工夫している。</p> <p><b>【態】</b> 粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。</p>

\*大半の授業で映像や資料提示のため ICT を活用する。